



2022年11月30日発行

# 奈良町見知ル実行委員会 Newsletter 特別号②

## 特集：特別公開スポット



(倉橋みどり)

ふだんは閉まっている歴史的な建造物の内部が見られるだけでもうれしいのに、実際に中に入ることができ、とても感動を覚えました。  
難病者の隔離施設だったという歴史を踏まえた上で窓から東大寺大仏殿が眺められることを知ると感慨深いものがあります。僧侶の方に事前にインタビューするなど宗教的な説明が少しあつてもよいのかかもしれません。

特別公開二日目が雨天となり、傘の置き場所や濡れた衣服で入っていくことに少し躊躇しました。

### 史跡 北山十八間戸



ト拉斯構造についての説明パンフレット、近辺の地図（ともにオリジナル）を無料配布されていました。  
説明は随時オーナーが行っていましたが、熱が入り過ぎて来訪者がやや滞留し、外で待っている人も多かつた様子でした。が、この建物を後世に残していくたいという熱意がしつかりと伝わってきました。

サービスさせていたスペシャリティコーヒーは量もたっぷりで淹れたてで美味。公開日は少し肌寒く、一層うれしく感じました。

(倉橋みどり)

珈琲やかじせん  
鍛冶千



## 旧細田家住宅

天気にも恵まれ、裏側の戸が開いていたので、全体的に空間がとても明るく、心地よく感じました。パンフレットを見ながらの見学だけでは当時の様子がイメージしづらかったのですが、係の人に質問をすると、とて



もていねいに答えて下さいました。各場所の説明パネルもよかったです。

生活感があるとより興味が湧くので、当時の家具や日用品など、また古い写真や資料なども合わせて展示していた大く機会を今後期待したいと思います。

(倉橋みどり)



## 藤岡家住宅

通りで足をとめた方々が藤岡さんのお話に熱心に聞き入っている様子は、少し離れた場所からでもよくわかりました。その輪の中に加わってみると、どうやら近隣の方も多くの、初めて内部の様子を見ることができて感動されていました。

藤岡家住宅は十八世紀後半に建てられた重厚感のある素晴らしい町家で、築二百年を優に超えています。奈良町見知ル期間中、藤岡さんのお心



遣いで、店の間の蔀戸、揚店がひらいた様子を特別に見せただくことができました。

当初は生薬を扱っていたようですが、幕末頃からはろうそく、鬢付油（整髪料）、おはぐろ等の小間物、昭和に入ると紙類といったように、時代によつて商いが変化していました。

この奈良町に残る貴重な文化財の保存・管理を個人で担うにとどまらず、地域の皆さんに公開までしてくださることに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

(杉山晋平)

中が思つていた以上に広く、門から見る印象とまったく違つていて、近所の人も「へえ、こんな建物だったのか」と驚いておられました。ふだんこの施設（奈良寮）を管理されている方が非常に具体的な説明をしてくださったので、歴史的価値とは若干離れるかもしれませんのが、ここを寮として活用しておられる武蔵野美術大学の学生さんの様子な

どにも触れられ、楽しかったです。建築物としての説明がもう少しあるとさらに感動が深まつたように思います。

(倉橋みどり)



## 重要文化財

### 今西家書院

奈良町見知ルの開催期間中、幸運にも二度訪れる機会を得ました。

日によつて異なる表情をみ

せる庭園に、すっかり心を奪われました。秋晴れの爽やか

な庭園、そして、しどしど

雨が降る中で鮮やかに燃える

紅葉の庭園。訪れる度に少し

ずつ色合いを変えていく紅葉

「ここははずつと改修中なん

ですが、アートが好きな人が集

まつて、自由な表現活動をつ

くり続けていくという意味で、

『改修中』であることを大事に

して います。』

ギャラリーの展示作品を紹

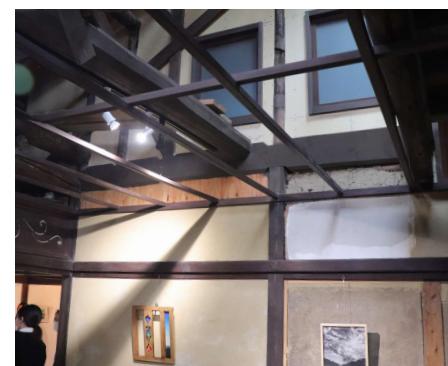
介して いただく合間、佐久間

さんが『改修中』という言葉

に込めた意味を語ってくださ

いました。

高畠町、旧柳生街道に面し  
て土塀に囲まれた屋敷は十八



## 法徳寺

「周りの人が幸せにならないと、自分も幸せにならない。周りの人が幸せになることで、はじめて自分も幸せになる、ということです。」

最終日の午後、今年の奈良

町見知ルで最後に訪れた特別公開スポットが法徳寺さんです。ご住職、倍巖良明さんの由緒案内を本堂で聞きます。

（杉山晋平）



## 重要文化財

### 今西家書院

奈良町見知ルの開催期間中、幸運にも二度訪れる機会を得ました。

日によって異なる表情をみ

せる庭園に、すっかり心を奪われました。秋晴れの爽やか

な庭園、そして、しどしど

雨が降る中で鮮やかに燃える

紅葉の庭園。訪れる度に少し

ずつ色合いを変えていく紅葉

「ここははずつと改修中なん

ですが、アートが好きな人が集

まつて、自由な表現活動をつ

くり続けていくという意味で、

『改修中』であることを大事に

して います。』

ギャラリーの展示作品を紹

介して いただく合間、佐久間

さんが『改修中』という言葉

に込めた意味を語ってくださ

いました。



登録有形文化財  
藤間家住宅

（杉山晋平）



期間中は、佐藤佳雄絵画展が同時開催でした。書院造の座敷、秋の庭園、そして、緻密で繊細な人物画などが重なる空間は、言葉をのむような美しさでした。

世紀から残る社家住宅で、春日大社で神職を代々務めた藤家間の住宅です。いつたんは傷みが進んだ空き家となっていましたが、地域に保全活動の輪を広げながら、今は地域の文化的価値を高めるアートの拠点となっています。

歴史を守り、歴史をつくる。進化し続けるその試みに触れることができました。

（杉山晋平）





昭和初期に志賀直哉自身が設計した数寄屋風の造り。美しい自然の風景に囲まれ、特に2階の客間から見える若草山の風景に心を奪われます。



五十年に一度、本尊の御替を着替える法要が行われることで有名です。奈良町見知ルでは、その御替を見学しつつ、お庭を眺めながらゆったりと手作りのお茶を楽しめます。

この日、補充分のパンフレットを持ってボランティアスタッフさんと一緒にうかがいました。そして、私たちは、パンフレットをご覧になつたというお客様とご住職の再会に居合わせ、素敵な時間を一緒にさせていただきました。



人と人との素敵なつながりにも感じられる、奈良町のいい時間です。「奈良のいいところを頑張って発信してね！」と応援の言葉までいただきました。

## 鍾城寺

「私、こここの住職さんが大

好きなんです。今日はこのパンフレットを見て、お話できるかなと思つて会いに来たのよ。」

エピソードをうかがっていると、目に映る風景に当時の暮らしが浮かんでくるようです。

何度も訪れたくなる、高畠のちょっといいところです。

(杉山晋平)



## 奈良町見知ル実行委員会 Newsletter 特別号②

2022年11月30日発行

編集：杉山晋平（天理大学）

写真：木村愛美（天理大学） 杉山晋平

連絡先：shimpei@sta.tenri-u.ac.jp

